

行政調査報告

議員会会長 石田彬良

10月25・26日の2日間、議員14名の参加のもと、行政調査を行いました。

今回は、当町に工場進出意向のある企業の工場視察と特色あるまちづくりに取り組んでいる群馬県甘楽町の調査でした。

企業視察

1日目は、矢板市に本社のある木材加工会社(株)トーセンから当町に工場進出の話があったことから、大田原市、矢板市の木材加工工場と群馬県藤岡市にある群馬県産材加工協同組合の施設を視察しました。

本社工場では、社長自らの案内により、オートメーション化された設備と大規模乾燥施設を視察しました。

その中でも、通常では廃棄してしまう端材を継ぎ合わせた集成間柱の製造工程や杉皮や不要材を燃料とし、ゴミを出さない環境にやさしい乾燥設備に興味を

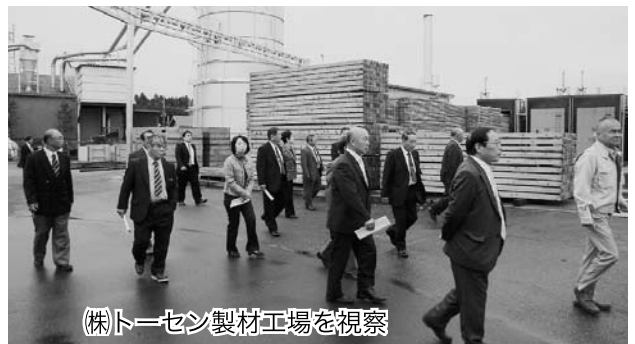
持ちました。

また、同社が群馬県産材加工協同組合にも参画していることから、同工場も視察しました。工場設備などは、国・県の補助事業を活用して建設し、原木から製材までを全自動で行う、国内初のワンウェイ方式製材機を導入していました。当然、この工場でも極力、ゴミを出さない方式を採用していました。

同社は、県内に6か所のほか、北関東を中心に15か所の製材工場を持ち、製材から流通まで一貫した管理を行い、需要に応じた木材を安定供給し、大手住宅メーカー、ホームセンターなどとも取引をしており、国産材の利用促進と森林荒廃防止に取り組んでいます。

同社では、旧馬頭東中学校跡地を活用した工場進出の計画があり、他工場と同様の製材工場と光興産とタイアップしたバイオマス発電を実施したいとのことで、地元産材活用や地元雇用のほか、山林荒廃防止などに大いに期待していると

ころです。



(株)トーセン製材工場を視察

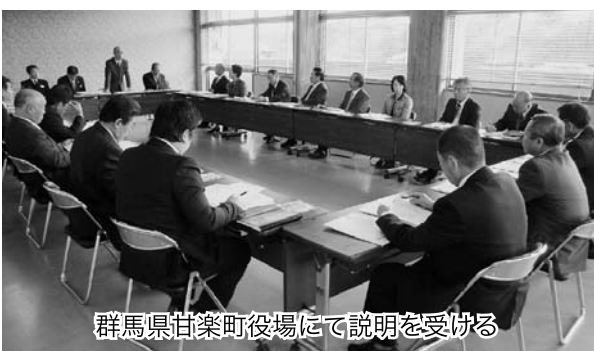
群馬県甘楽町

2日目は、特色ある町づくりや議会運営について、群馬県甘楽町の取り組みを調査しました。

甘楽町は、人口約1万4千人、4,555世帯、一般会計予算48億4千万円、町職員数118人の町ですが、平成の合併はせず、自立の道を選択したそうです。自主財源は37%と町同様、厳しい財政運営ですが、子育て支援、定住対策、証明書自動交付機設置などのほか、町に縁のある全国

で活躍している方々に、町のPR活動をお願いする「甘楽ふるさと大使」の任命など、独自にユニークな施策を展開しています。また、国保税なども、毎年、需要に沿った見直しを行っています。

今回の調査では、大変参考となった事項も多く、今後の那珂川町政の振興に少しでも役立つことを期待しています。また、行政調査にご協力をいただきました(株)トーセン並びに甘楽町の皆様に心より感謝申し上げます。行政調査の報告とします。



群馬県甘楽町役場にて説明を受ける

常任委員会事務調査報告

総務企画常任委員会

委員長 橋本

委員 橋本 操

県営最終処分場を視察、指定管理者制度を調査

(11月11・12日)

「埼玉県寄居町」

埼玉県が設置した管理型最終処分場「埼玉県環境整備センター」を視察しました。

同処分場は、県内で排出される一般廃棄物、産業廃棄物8品目及び建設残土を最終処分(埋立て)する施設で、埋立容量193万m³となっています。

埋立は、二重遮水シートによる廃棄物と覆土のサンドイッチ工法を採用し、廃棄物の飛散や悪臭を防止しています。安全管理面では、入場時と廃棄時の内容物検査と、地域住民(監視員)による不定期の持ち込み物監視(3人1組、毎週1回)が行われていました。

また、隣接地では「彩の国資源循環工場」として、公共関与による民間環境関係産業8社が操業しているほか、大手自動車会社の大

規模工場が操業間近であり、地元雇用にも貢献しています。



処分場概要の説明を受ける

「群馬県大泉町」

当町でも課題となっている公共施設の指定管理者制度と町税等の納付について調査を行いました。

大泉町では、平成18年度より指定管理者制度を活用し、現在、18施設に制度が導入されています。特に視察をした「いずみの杜」では、民間事業者ならではの運営により、成果を上げていました。

町税等の納付では、商工会が実施している大泉スタンプによる町税等の納入や、未納者対策として実施されている行政サービスの利用制限についての説明を受けました。

■教育民生常任委員会

委員長 大金 市美
複合施設、学校再編、保育園の民間委託を調査
(11月8・9日)

「山形県川西町」

図書館と文化ホールが併設された複合施設「川西町フレンドリープラザ」を視察しました。

同施設には、同町出身の直木賞作家で「ひよっこりひよたん島」の作者としても有名な「井上ひさし」氏寄贈の蔵書や肉筆原稿などの資料が「遅筆堂文庫」として展示収蔵されており、毎年、数多くのファンが訪れるそうです。また、文化ホールは劇場としても利用され、芸能関係者からの評価も高く、多くの来場があるそうです。

運営管理は、指定管理者として、NPO法人遅筆堂文庫プロジェクトが行っており、独自の事業にも取り組んでいます。

「山形県高島町」

当町でも進められている小中学校の再編統合と、保育園の民間委託、認定こども園の運営について調査を

行いました。

現在、4中学校を1校に新設統合することで検討されており、地域合意までの経緯や通学バスなどの状況を伺いました。

保育園の民間委託については、町集中改革プランに基づき、委託に向けて選考委員会を設置し、移管法人を選考したとのことであり、平成21年度より1園が民営化され、従来のサービスを低下させることなく、年間約800万円の経費削減効果があるとのことでした。

認定こども園の「たかはたこども園」は、幼稚園と保育所を融合した施設で保護者の就労形態に応じた子育て支援や特別保育など、幅広い保育事業が展開されています。



フレンドリープラザにて

■産業建設常任委員会

委員長 阿久津武之
空き店舗活用と飯豊町まちづくり事業を調査
(11月15・16日)

「茂木町」

町中心商店街活性化対策の一環として、茂木町駅前開設されたアンテナショップ「まんなかカフェ」を視察しました。

この施設は、郊外に設置されている「ツインリンクもてぎ」や「道の駅」などの来場者を中心街に誘導することや地域コミュニティの醸成などを目的に、平成21年11月に商工会が空き店舗を活用して開設した施設であり、町中心街が明るくなったとの声もあるが、経営健全化など今後の課題もあるとのことでした。

当町でも空き店舗や商店街の衰退などの問題を抱えています。当町にあった対策をどう考えていくかが今後の課題です。

「山形県飯豊町」

当町の害獣は「イノシシ」ですが、飯豊町では「熊」でした。どこの農村でも悩まされる問題はあります



茂木町まんなかカフェ

が、それを契機としてまちづくりを生かしていくことも大切であることを実感しました。

同町では、昔の賑わいを現代風にアレンジして賑わいを再現し、町を元気にする施策「にぎわい再現プロジェクト」に取り組んでいます。若年層の町民から公募した13名で組織する「にぎわい再現プロジェクト委員会」の中で議論提案された各種のイベントや事業が実施されています。

また、住民と行政との協働によるまちづくりの一環として、幹線道路以外の町道等を地域住民自らが整備を行う「道普請事業」が実施されています。町は、道路整備作業に必要な原材料費の助成や作業機械の貸与を行っているとのことでした。